

幼児教育研修（新人） 第2回 受講者数 88名

日時 令和5年1月31日（火）

場所 竹ノ塚地域学習センター 4階ホール

講師 日本体育大学 児童スポーツ教育学部 教授 齊藤 多江子 氏

【内 容】 ～保育の基本～

1回目の研修で学んだ保育の基本を踏まえ、子どもを中心に考える保育実践の方法を学びます。子どもを「権利の主体」として捉える重要性についての聴講後に、日々の保育を振り返り自分の保育と向き合うワークやグループ討議を通して、子どもの主体としての思いや願いを受け止める大切さに気付くとともに、保育実践に活かす必要性を考える機会になりました。



【受講者の感想】

* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか ～学んだことを実践して～

・研修の内容にもあった「子どもの主体としての思いや願いを受け止めること」を意識して保育をしたい。つい先回りして言葉がけをしてしまいがちなので、子ども一人一人の一つ一つの行動に目を向け、子どもたちを信じて待つこと、見守ることを心がける。

・子どもの思いや願いを受け止め、代弁したり肯定的な言葉がけを意識したりする。子どもの目線に立ち「何が嫌だったのか」「どうしてそうしたいのか」を考え、一人一人と向き合う時間を作る。

・担当の子ども一人一人の不安や甘えを受け止め、気持ちに寄り添っていく。いつでも見守ってくれている、自分を受け止めてもらえるという安心感を持って過ごせるよう温かいまなざしやさりげない言葉がけの一つ一つを意識し、大切にしていく。

・子どもの人権や尊厳を傷つけていないか、自分の行動を見直していく。一人一人の子どもを見ていく中で、子どもの相互関係はどうなっているのかよく見て、必要に応じた援助を考えていく。

・遊びをよく考え、子どもたちのイメージに寄り添いながら、介入しすぎず、その環境を子どもたちと作っていききたい。

・一人一人を大切に、子どもにとって安心して過ごせる環境をつくれるよう配慮し、その子らしさを大切にしていく。